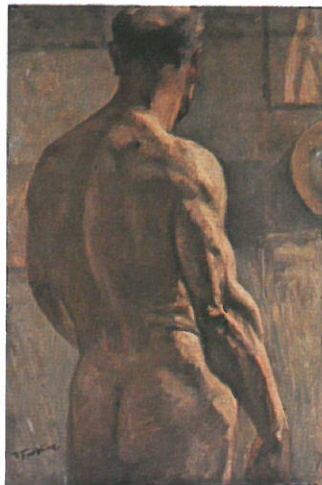


## 主な収蔵品

〈敬称略〉



▲裸体習作 藤島武二

◀桜島爆発 黒田清輝



### 洋画と彫刻

黒田清輝（1866～1924）は法律を勉強する目的でフランスに留学したが、まもなくラファエル・コランの門に入り、西洋画を学ぶようになる。滞仏中に外光派の画風を修得して帰朝、日本画壇に新風を吹きこんだ。本館にある6点の「桜島」の絵は、大正3年桜島大爆発の絵である。実父の病氣見舞のため帰省中、桜島噴火に遭遇。刻々変る噴火の様を日を追って写生した貴重な作品。「アトリエ」は滞欧時代の作品。他に「自画像」（油彩）やデッサンなどが展示してある。

藤島武二（1867～1943）は、はじめ日本画を習い、23才頃から西洋画を学ぶ。のち、黒田清輝に見出され東京美術学校の助教授となる。新鮮で大胆なタッチと美しい色調で、数々の話題作を発表。ここにある「裸体習作」は「もし、鹿児島に美術館ができるとすれば、残す作品はこれだ……」と語ったといわれる滞欧時代の力作。「中国風景」や「台湾風物」「蒙古高原」のバステル画など、晩年、旭日を描くため、台湾、蒙古まで足を運んだときの一連の作品である。

和田英作（1874～1959）は黒田清輝の天真道場に学ぶ。東京美術学校助教授に任ぜられ、教育のかたわら、人物・風景・静物など、いづれもリアルな描写の堅実な作品を数多く残した。ここに展示されている「東伏見宮大妃殿下肖像」「箱根丸船長」「富士」「赤いマッチ」「花」などにその特質がよくあらわれている。



▲赤いマッチ 和田英作



▲木こりと熊 海老原喜之助



▲雲 東郷青児

海老原喜之助（1904～1970）は、19才の若さでパリに出た。藤田嗣治の薫陶を受けて、1934年帰国、戦後、次々に珠玉のような作品を生み出し独自の世界を拓いた。ここにある初期の作品「魚」「熊と樵夫」中期の「市」「ボンサマルタン」晩年の「男の顔」などいずれも海老原芸術の強い個性が発揮されている。

東郷青児（1897～1978）は若くから野心作を発表、注目された。独特の画風で甘美な女人像を探究した。ここには「鳥」「雲」を展示。

その他、セザンヌを初めて日本に紹介した有島生馬（1882～1974）の「 Suzanne」や時任鵬熊（1874～1932）の「臥子牛」和田香苗（1897～1977）の「日本平眺望」などがある。

彫刻では、我が国仏像の権威者で、京都、奈良をはじめ、数多く寺院の仏像の修復や模刻を手がけた新納忠之介（1868～1954）の木彫「大黒天」、「四天王像原型」などがある。

本館となりの「西郷隆盛銅像」また東京渋谷駅の「忠犬ハチ公」の製作者として名高い安藤 照（1892～1945）のブロンズ、石膏像などがあるが、小品ながら、芸術性の高さがうかがわれる。なお、戦前のハチ公は軍に供出されたので戦後、子息の士が、現在のハチ公を復元。その原型が本館玄関に展示してある。



▲大黒天 新納忠之介



▲安藤 照

### 宮之原謙の遺作品

宮之原 謙（1898～1977）の遺作が本館に寄贈されたのを機会に、宮之原陶芸コーナーを設けた。若いころからだの弱かった宮之原は「土をいじれば丈夫になる」というわけで、29才で陶芸を志し、その後、帝展、日展を舞台に活躍、端正で、精巧な作品を発表。

帝展初入選の花瓶をはじめ、最後の作品となった直径91cmの大皿などを展示。

◀象嵌磁木の葉文花瓶



### 郷土の歴史資料

西郷南州（1827～1877）は書を能くし「敬天愛人」は県の指定文化財。衣類や筆、硯、鋸、下駄などの遺品のほか、写真嫌いであったといわれる南州を描いた肖像画をいくつか展示している。西郷は5尺9寸、29貫の巨漢であった。



▲西郷南州遺墨

明治維新には西郷とともに大いに功績を挙げた大久保甲東（1830～1878）が、暗殺される直前に書いた「為清政明」これも県の文化財に指定されている。

その他、桐野利明（1838～1877）の使用したブラシ、別府晋介（1847～1877）の遺書、篠原国幹（1836～1877）の背のうなどがある。

### 薩摩焼と薩摩切子

薩摩焼の歴史は1595年、豊臣秀吉の朝鮮出兵の折、薩摩藩からは島津義弘が参戦し、この時、多くの朝鮮陶工を伴って帰国、串木野に窯を築いたのが、そのはじまり。今からおよそ380年前のことである。その後、窯場も県内各地に開かれ、あるいは移窯されて製品も多種多様なものになった。

薩摩切子は1845年、今からおよそ130年前、島津斉彬が磯において造らせたもの。石を砕いて型に入れ、ヤスリで切ってデザインを施している。また色硝子の製法には黄金や銅粉などを使って美しい製品をつくりだしている。



### 100年前の農家と農具類

約100年前、本県溝辺町に建てられていた農家の1部を再現したもの。床にはウドコ、カモイの上にはキャクロという大きな材を用い、屋根裏には穀物を入れたカマスを貯蔵するようになっている。いろりを切って自在かぎを使い、台所には竹をつかって水切りをよくし、窓の具合や調度もよく使えるように工夫されている。石風呂、スキ、鍬、ミノカサの類から、もみすりや糸つむぎ機などすべて農家で使用したものである。



### その他の展示

正面玄関わきにある「よろい」は鹿児島神宮所有のもので、鎌倉時代の作、国の重要文化財に指定されている。また、常設展示のほか、薩藩画人伝という本に名を連ねる画家や、書家の作品とか地元関係美術家の作品など、小企模な企画展として館蔵品中心のテーマ展示を年3～4回開催。その他年1回特別展、県美展、高校美術展、小中学校絵画展などを実施する。

（おこもり）常設展示の内容は模様替等のため変更することがあります。

## 利用案内

- \*開館時間 午前9時～午後5時（入館は4時半まで）
- \*休館日 月曜日、祝日（日曜日にあたるときは開館）、12月29日から1月3日まで、その他館内整理のため臨時休館することがある。

\*観覧料

区分	個人	団体	備考
大人	80円	60円	高校生以上
小人	20円	15円	小・中学生

団体は20名以上。その他特別展の場合はそのつど観覧料をきめる。

- \*美術教室 毎週、水曜日又は金曜日の夜（6時～9時）石膏デッサン及びコスチュームの洋画実技講習を実施している。受講料は1期（約18回）につき 2,500円
- \*友の会 美術館で開かれる展覧会を気軽に鑑賞し、みるだけでなく、自分の手をつかって作品をつくる。同時に、美術館の活動を側面から援助しようという人たちのつどい。希望者はいつでも入会できる。

会費 1年につき 2,000円

- \*展示室使用料 展示室の使用申込は、原則として1年から1年半前（前年度の10月末頃）までに予約申込をする。

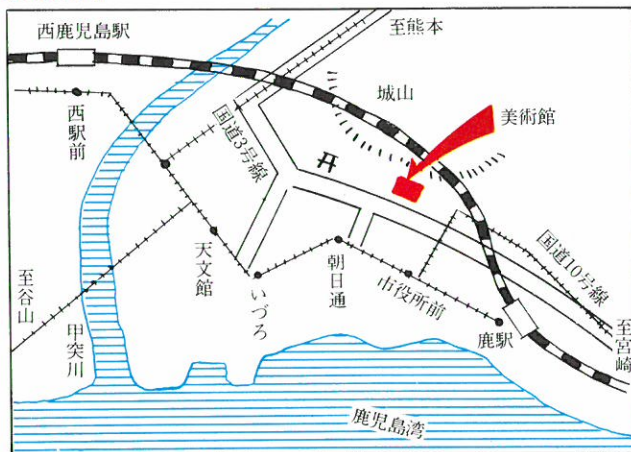
第1展示室（79㎡）	1日につき	1,000円
第2展示室（136㎡）	〃	1,500円
別館展示室（250㎡）	〃	3,000円

- \*その他 身体の不自由な方のために、車椅子を用意してある。なお、付添の方の入館は無料。

## 図録等販売案内

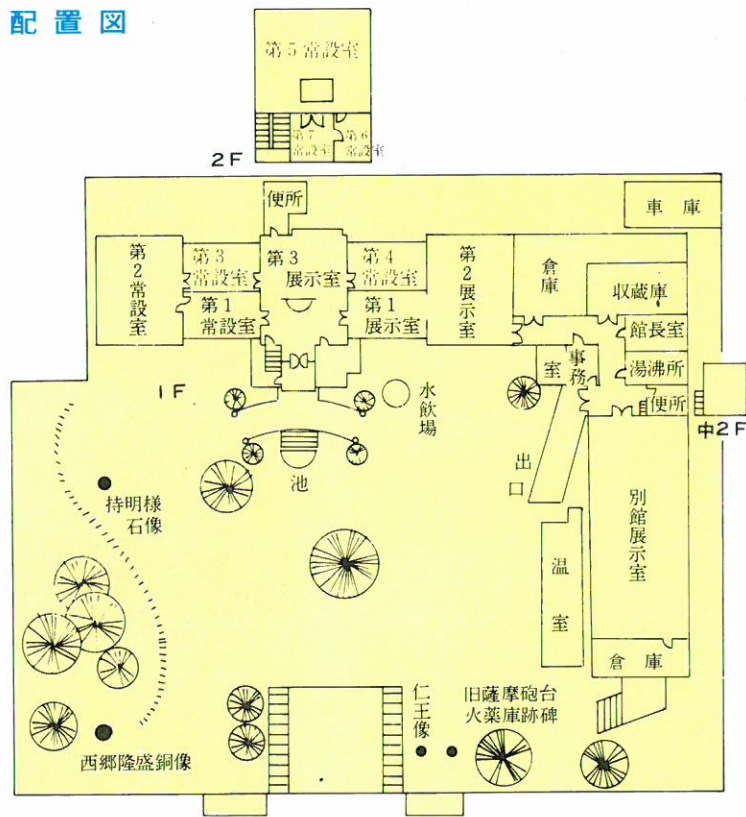
西郷南洲遺墨「敬天愛人」（複製）	1枚	500円（筒入）
大久保甲東遺墨「為政清明」（複製）	1枚	500円（筒入）
美術絵はがき	5枚1組	200円
薩摩のやきもの（特別展目録）	1部	50円
有島生馬展（図録）	1冊	500円

## 交通案内



鹿児島本線西鹿児島駅下車、徒歩30分。又は市電・市バス朝日通下車徒歩5分 駐車場あり。

## 配置図



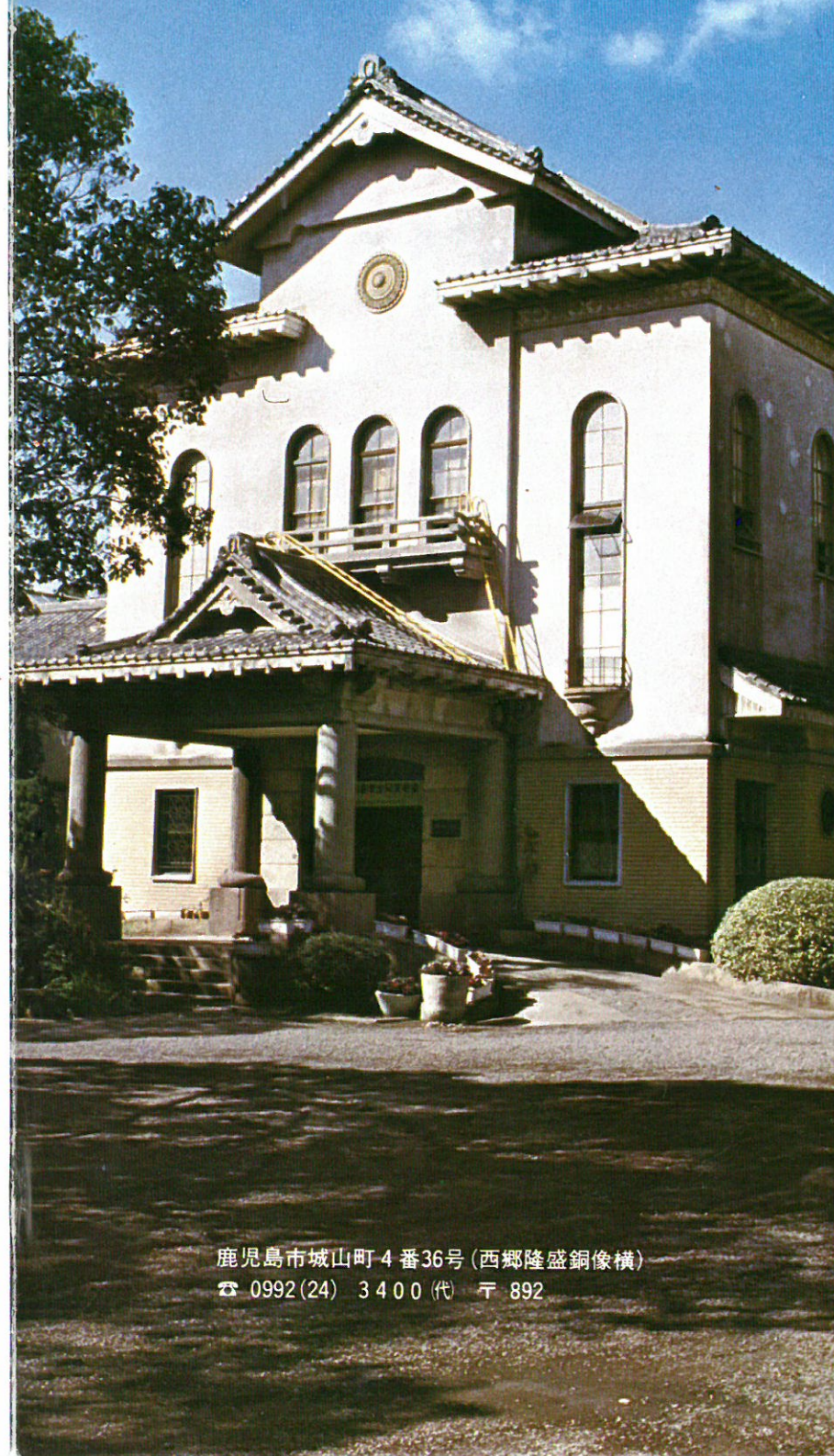
城山の麓、このあたりは旧島津藩の居城、鶴丸城の二の丸跡で明治時代から昭和13年までは市役所があったところである。市役所移転後、藤武喜佐衛門氏の遺族の篤志によって、歴史館が建てられたが、昭和20年戦災で焼失。残った外郭を生かして昭和26年から4ヶ年にわたって本館を復元。昭和29年9月1日市立美術館として開館した。ついで昭和31年6月、岩崎与八郎氏の寄贈によって、別館が建築され、同時に事務室、倉庫など増築して現在に至っている。

敷地面積	3,532.42㎡	展示室面積	1,212.35㎡
建物延面積	1,843.20㎡	収蔵庫倉庫	145.60㎡

## 来館記念スタンプ

# 鹿児島市立美術館

KAGOSHIMA MUNICIPAL ART MUSEUM



鹿児島市城山町4番36号（西郷隆盛銅像横）  
☎ 0992(24) 3400(代) 〒 892